



たった3ヵ月で堆積下土砂（新幹線橋梁下流）



擁壁工事が進む観音谷川遠景



新幹線橋梁の下で休むハヤブサ



生瀬橋左岸下からみた峡谷景観



丁字が 滝整備人



丁字が 滝下の炭酸泉？

たいした降雨量ではなかったものの6月末～7月末まで鬱陶しいお天気続きえコロナ感染も手伝って鬱陶しい気分で過ごされた方も多かったと思う。折角掘削された新幹線橋梁下流側も掘削前と同じような形で土砂堆積が進み、甲武橋下流の6堰下流側の土砂堆積も進み柳の木が一段と育ち大量の流木や漂着物が引っ掛かり見苦しくなっていた。観音谷川擁壁工事は順調に進んでいるが遠方から眺めたら、崖地の緑を剥がしたらこんな危険な崖地、その上に住宅が建っているところを見たら、何時浸水してもおかしくないリバーサイト住宅と同じように見えてきた。なんでこんな処を開発したのか不思議な感じがする。公共事業で進められる擁壁工事、住宅を守るためだけでなく武庫川へ大量土砂流入防止のためだろうと納得理解した。工事現場から上の緑も引っ剥がしたら同じような危険崖地でなければよいが。絵葉書にもなった丁字が 滝であるが、宝塚市民も忘れてしまったかの樹木で覆われ薄暗くなった茶屋跡も荒れ放題でここが名所だったと知る人もいなくなった。しかし知る人知っている。近くにお住まいの方が自費で丁字が 滝の看板立て急坂にロープ張り樹木を切り、黙々と名所保護作業していた。我々は川づくり。このオジサンは名所づくりしているのが嬉しくなった。教えてもらったボーリング跡で湧き上がる水に吹き出る気泡から炭酸泉だと推測出来る。